

エイリアン・アブダクション 宇宙人に拉致されたアイドル

日本海に面した人口八万人の真岡市で奇怪な現象が最初に報告されたのは、梅雨が明け、本格的な夏の到来を予感させる七月上旬の寝苦しい夜のことであった。

この夜、市内全域が停電に襲われた。原因は不明で、市内に電力を供給する発電所や送電網には異常がなく、隣接する秋男町や長狭村には正常通り電力の供給が続いていた。つまり、真岡市だけで謎の停電が発生したわけだが、この夜、市内各所で上空をゆっくりと飛行する赤い発光体の目撃報告が相次いだことから、一部では、この停電の原因はUFOの仕業ではないか、と真しやかに囁かれた。

謎の大規模停電から数日後の七月一三日、真岡市上空を飛行していたウラジオストク発―羽田行きボーイング七八七型機より、新潟空港へエマージェンシー・コールが入る。それは謎の赤い飛行物体に追跡されているとの連絡で、七八七型機のパイロットは切羽詰まった様子で付近を飛行中の他の航空機に関する情報を求めてきた。新潟空港の管制官は動揺した。なぜならば、空港のレーダーには、ボーイング七八七型機以外の飛行物体は確認できなかったからである。

謎の赤い発光体に関するやり取りは、その後、パイロットと管制官の間で緊迫感をもつて約四分間に渡って続いたが、ほどなくして赤い発光体が消失したため、パイロットと管制官は共にホッと胸を撫で下ろした。パイロットはこのやり取りを公式記録には残さないと欲しいと伝え、管制官もそれを承諾した。この数時間後、三沢基地所属の航空自衛隊機が、やはり真岡市上空で国籍不明の飛行物体と遭遇するという事件が発生するが、このふたつの事件の関連性を確認することはできなかった。

七月一五日、真岡市で、下校途中の小学生四人が路上で倒れているのが発見され、

病院に搬送された。当初は車に轢かれたものと思われたが、四人に外傷はなく、また何かにつかつたような痕跡も見当たらなかった。ただ、四人の衣服には、蛍光塗料のような薄い緑色をした粘液状の物質がベツタリと付着しており、それは刺激を伴う悪臭を放っていた。

病院が大騒ぎになったのは、四人の精密検査が終わった直後である。四人の頭部に（それも同じ位置に）奇妙な金属片が何個も突き刺さっていることが判明したのだ。レントゲンから推測された金属片の大きさは、小さいモノで数ミリ、大きいモノだと数センチという代物で、すぐに開頭手術がおこなわれることになった。長時間の手術の末に取り出された金属片は、見たことのないような鈍い銀色の光を放つ物体で、ソレは空気に触れた途端、ボロボロと錆びで崩れ落ちてしまった。後にその成分を分析した結果、地球上には存在しない値を示したため、関係者を驚愕させた。

七月一日、この夜、市内で再び停電が発生し、上空に赤い発光体が目撃される。この時、市内各所では、飼い犬や野良猫たちが怯えたように鳴きはじめ、なかには人間に助けを求めるかのように擦り寄ってくる個体があったことも多数報告された。

七月二〇日、真岡市郊外に位置する田んぼに奇妙なサークルが複数出現しているのが見つかった。それはミステリー・サークルと呼ばれる類のモノで、踏み倒された稲はまるで編み物のように丁寧に織り込まれた状態で倒されていた。

七月二三日、真岡市郊外の牧場で、飼われていた五〇頭あまりの乳牛が牛舎の中で死んでいるのが見つかった。死んだ牛は、どれも目を抉られ、舌を切り取られ、内臓をこつそりと取り除かれ、そして全ての血を抜き取られていた。また、牛の死体から高濃度の放射線が検出されたため、牧場一帯を調査したところ、牧場全体が規制基準を大幅に超える基準値を示したため、牧場は強制的に閉鎖となった。

この牧場は、若い夫婦が自分たちの夢をかなえるため、借金をして建てた牧場だった。だが、この一件で破産に追い込まれた夫婦は、莫大な借金だけを抱えて失意の内に真岡市を後にした。そして一年後、夫婦の間には子どもが生まれたのだが、その子どもは目が三つ、腕が四つ、足が一つ、そして尻尾が生えているという障害を持って生まれてきた。身体的特徴以外は元気な赤ん坊そのものだったが、将来を悲観した夫婦は、その後、生まれたての赤ん坊と一緒に無理心中にてこの世を去った。

話は戻り、いよいよ事態が深刻の度合いを増していったのは、七月二十八日のことである。この日の夕方、ひとりの女性が交番に助けを求めた。女性は、赤い発光体に追跡され、なんとも表現し難い色合いをした触手に襲われたとまくし立てた。女性の服には薄い緑色の粘性を帯びた液体がベツトリと付着しており、その液体は鼻を突く刺激臭を伴っていた。

七月二十九日、市内在住の四十代の男性が変死体となって発見された。一緒にいた男性の娘の証言によると、男性と娘が買い物に出かけた直後、突然、赤い発光体が目の前に出現し、凄まじい色合いをした触手が娘に向かって伸びてきたのだという。男性が咄嗟に身を呈して娘を護ると、触手はまるで怒り狂ったように暴れまわり、男性の身体に巻きつくくと、力づくで引き裂き、バラバラの肉片にしてしまったという。娘はその間に逃げて無事だったが、父の死を目の当たりにして心に深い傷を負い、警察の事情聴取の後、市内の精神病院に入院をした。

真岡市全域を恐怖が覆うなか、まるでそれを払拭するかのようになり、ビーチで市が主催する美人コンテストが開催されたのは八月三日のことであった。これは真岡市主催で毎年開催されているコンテストで、今年で一四回目になる。優勝者には賞金二〇〇万円と「ミス真岡」の称号、そして「真岡観光大使」としての役割が与えられる。歴

代の優勝者の中には芸能界の第一線で活躍しているアイドルも何人かいるため、このコンテストは、今後芸能界で活躍するための種のある種の登竜門的存在と位置づけられており、参加者が日本全国から集まることでも知られていた。

厳然たる審査の結果、栄えある一四代目ミス真岡に選ばれたのは、東京でグラビア・アイドルとして活躍している佐々木恵美里であった。年齢は一〇代後半、小柄で、顔にはまだ幼さが残っているものの、魅力溢れる笑顔と堂々とした振る舞い、そして際どい水着から零れ落ちそうなFカップの爆乳が審査員たちを轟感した結果、彼女の優勝が満場一致で決定したのだった。

コンテスト終了後、恵美里は事務所のマネージャーらと一緒に地元の親睦会に参加し、愛想を振りまいた後、年齢を理由に少し早めに帰路についた。同行していたマネージャーはタクシーで戻ることを進めたが、ホテルまで徒歩一〇分であることを理由に、恵美里は歩いて戻ることを選択した。お酒は飲んでいなくても、気分がよかつたのだろう。いまだ興奮が止まぬ気持ちを鎮めるため、夜風にあたりたかつたのだ。

だが、懇親会場を後にした恵美里が、もう一度、人前に現れることは二度となかった。行方不明になってしまったからである。

——この日の夜、市内各所では、上空の遙か彼方へと飛び去ってゆく赤い発光体が目撃され、以後、真岡市で赤い発光体が目撃されることは二度となかった。

続きは本編にてお楽しみください